



まろにえ

令和7年12月5日
学校だより 第8号
羽村市立羽村第一中学校

令和7年を振り返って

校長 三浦 利信

令和7年の授業も25日(木)の終業式で終わります。令和7年は「巳」年でした。

巳(み・へび)は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルにもされているようです。また、十二支と十干(じっかん)を合わせると「乙巳(きのとみ)」となり、再生と変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年になると考えられるようです。羽村一中では3月に225名の卒業生を送り出し、4月に188名の新入生を迎えるました。教育活動を振り返ると、修学旅行や校外学習等の教育活動は予定通りに実施でき、それぞれ課題も見られましたが、生徒が成長できる機会となりました。猛暑や第2校舎の空調故障等のトラブルはありましたが、その状況を受け入れ、柔軟に発展(成長)できる一年となったと考えています。

今の中学生が社会の中心として活躍するこれからの時代は「共生」の社会と言われています。「共生」の社会とは、性別、年齢、民族、国籍、障害の有無などにかかわらず、多様な人々が互いを尊重し、支え合いながら共に生きていく社会です。このような社会を実現していくためには、人々の「ちがい」を認め合い、多様な在り方を肯定的に受け入れる多様性の尊重や、

「支える側」「支えられる側」という従来の二分された関係を超えて人と人、人と社会がつながり、誰もが役割を持って助け合う地域コミュニティの創出による相互の支え合いが大切と言われています。

6月には、3年生が修学旅行で「EXPO 2025 大阪・関西万博」を見学しました。大阪万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」でした。訪問日が日曜日で予想以上の混雑もあり、十分な見学時間や場所の確保はできませんでしたが、会場やパビリオンの見学をとおして、テーマである「未来社会のデザイン」を感じることができたと思います。11月には、1年生と8組が「東京 2025 デフリンピック」のバドミントン競技を観戦しました。日本では、オリンピックやパラリンピックは夏季・冬季合わせて4回開催されていますが、「デフリンピック」の開催は今回が初めてでした。世界各国のデフアスリートが懸命にプレイする姿、北海道の高校3年生、森本選手の力強いプレイには、多くの生徒が応援ボードを掲げてエールを送っていました。



校則(学校のきまり)の見直しについて(令和8年度から)

令和7年度より、靴下の色、女子の髪の結び方、制汗剤の使用などの学校のきまりの見直しをしました。実施後の生徒アンケートでは、すべての項目で肯定的な評価となりました。アンケートの自由意見等を踏まえて、令和8年度より、夏服のポロシャツの色(白・黒の追加)と試験前(部活停止期間)の登校時間を早める見直しを予定しています。



学習や行事、部活動等に一生懸命に取り組むー中生の素敵な様子を紹介します。

東京デフリンピック ~11月19日(水)~

東京デフリンピックは聴覚障害者のための国際的なスポーツイベントで、11月15日から26日まで開催され、約100カ国から5,000人の選手が参加しました。

1年生と8組の生徒たちは、京王アリーナ TOKYO に行き、バドミントンの試合を観戦してきました。事前学習では、デフリンピックに関する内容をビデオで学習したり、聴覚に障害のある選手のために応援ボードを作成したり、手を使った応援の仕方を学んだりしました。競技中も手話を用いてコミュニケーションをとり、白熱した試合を繰り広げる選手の様子を見て、生徒も引率した教員も大興奮で、貴重な体験となりました。



【表彰】

*第65回 全国中学校水泳競技大会 女子200m背泳ぎ 第2位 松原希衣さん
同大会 女子100m背泳ぎ 第6位 松原希衣さん

*第8ブロック中学校女子バレー新入大会 優勝 (都大会出場)

*第8ブロック中学校女子バスケットボール秋季新入大会 準優勝 HAMURA BLOSSOM

*第8ブロック駅伝競技大会 男子の部 3位 ・ 女子の部 6位

*第8ブロック卓球新入大会 第5位 川村一叶さん・中塚詩乃さん・岡せりさん

*ドイツ大使館主催絵画コンテスト「わたしのドイツ」2025
中学生の部 第2位 田中陽琉さん ・ 第3位 幡野友菜さん

～インフルエンザの対応と三者面談のお礼～
学級・学年閉鎖、三者面談等のご対応をいただき、誠にありがとうございました。感染症に罹患した場合の「登校再開届」につきましては、本校 HP の保健室のページからダウンロードできます。保護者の方が「登校再開届」を記入し、登校時にお子様に持たせてください。よろしくお願ひいたします。

